

# WHAT

## 韓国・梨花女子大学校

文教育学部 芸術・表現行動学科  
グローバル文化学環 3年  
森田真奈子



私は長年関心のあった東アジアの歴史問題についての視野を広げたいと思い、韓国の梨花女子大学校へ留学しました。私が到着した 2011 年の 8 月はちょうど韓国大統領の竹島/独島への上陸などが合間って、日韓関係が急速に悪化した時期でした。到着当初は、日本の友達から韓国にいることを心配されるほどでしたが、実際に現地にいると特に問題はなく、むしろ政治的に難しい時期に留学できたことは良い経験になったのではないかと思います。

大学での授業は、留学生用の中級韓国語に加え、東アジアの近現代史や国際関係、韓国の宗教文化に関する英語での授業、またネイティブの先生によるフランス語会話の授業を受講していました。韓国の大学は、一つの授業が週に二回ある上、毎週かなりの量の文献購読を課されるため、授業はとてもハードでした。また、毎週の文献講読やレポートなどを通して、外国語での文献講読スキルを身につけることができたのも良かったです。

梨花女子大学校は留学生が非常に多く、アフリカや中東なども含め世界中からの留学生が学んでいました。私は留学生用の国際寄宿舎に住

み、スウェーデンからの留学生がルームメイトでした。日本では実家暮らしだったため、一人暮らしは初めてで、さらに外国人とのルームシェアということで最初はとても不安でしたが、ルームメイトとは徐々に打ち解け、和気あいあいと過ごすことができました。また、寄宿舎では世界中からの留学生達と一緒に勉強する機会も多く、授業でのわからない点を教え合ったり、各国の文化や社会に関する様々な情報を直接聞いたり、寮生活は今から思い出しても懐かしいことばかりです。

留学生活に慣れてきた後半からは、短い期間でしたが課外活動にも挑戦しました。一つは、フランス語の学内新聞に記事を書くというもので、韓国語のクラスメイトだったモロッコ人の友人にフランス語圏と韓国の比較をテーマにインタビューをして、フランス語で記事を載せました。そしてもう一つは高校生の頃から関心のあった慰安婦問題について取り組むサークルに参加しました。私がいた時には、毎週集まって文献講読を行うという活動が基本でしたが、唯一の留学生の私を温かく迎え入れてくれ、この問題を国家間問題ではなく、男性中心主義に帰する問題だと捉えていたことが印象的でした。

このように梨花女子大学ではたった一学期間でしたが、本当に恵まれた環境で充実した時間を過ごしました。帰国後も留学中に知り合った友達とは連絡をとり続けており、そのような心から信頼し合える人々と出会えたことが留学を通しての何より大きな収穫だったと思います。